

きつと、大丈夫！

NSN会長 武藤 哲

3回目の緊急事態宣言が5月末まで延長
され、やえない日々が続いていますが、皆
様、いかがお過ごしでしょうか。

ねりまシニアネットワーク(以下、NS
N)も4月下旬の総会が開催できず、総会特
集号の予定だった本号は記事不足で、A4
の1枚になってしまいました。5月30日に
予定していたシニアセミナーも、昨年に続
き中止が延期です。私たち一人一人にもN
SNにも厳しい状況が足掛け2年続き、終
わる見通しも立ちません。私は、日々、元
気の素が少しずつ失われていくような気分
になっています。

そんな中、子ども時代、昭和30年に練馬
に住み始めた頃のことを思い出しました。
今も住む保谷駅周辺は畑が多く、「誰もが貧
乏」な時代でした。そんな時代、父が結核
で入院し休職しました。休職中は月給が4
割カットでボーナスなし。小学2年生でも
家にお金の全くないことは分かります。あ
る時、図工クラブでねじ回してポンチを持
つイベントが開催されたのですが、母

無心で書き、クラブを辞めました。そんな生活
がいつまで続くのか見当もつかず、辛い日々で
した。

あの頃よりは今のほうがずっと良いと思うと
ともに、その違いを考えました。思い至ったの
は、今は状況を自分の意志でコントロールでき
るといことです。あの頃はすべてが受け身
で、ただ流されていきました。今は感染防止策
、ワクチン接種の有効性等について学び、自分の
行動を決められます。私以上に厳しい経験をし
た方が大勢おられるはずですよ。

年を取るとは、苦難に耐えた経験も十分ある
ということでしょう。厳しい状況にも適切に対
処する知恵を今の我々は持っているはずですよ。
だから、きつと、大丈夫。「コロナの1年」等
仲間の知恵も参考に、「コロナに負けず、しなや
かに生きる延びましよう」。

【ねりまシニアセミナー開催について】

5月30日(日)「開催予定していた第27回
ねりまシニアセミナー」は行いません。

【編集後記】

暗いコロナ禍でのNSNの灯となすことを
願って、この号をお送りします。(〇)

【「コロナ禍での会の活動」

私の所属する「まるる会」は、平成28年(2
016年)「会員数が激減してNSNを脱退
しましたが、私のみ特別会員として残留して
今日に至っております。

現在も続いている「まるる会」は病欠を除
いて5名、何とか続けられる限界です。

少ない人数での活動は内容が限られ、毎月
苦慮している状況です。そこでのコロナが
来ました。そこでこの「コロナ禍の中の活動で
すが、そのうちの平成27年から続けてきた
「短歌」(25回)「川柳」(3回)を、メール
のやり取りで出来ないかとの提案があり、早
速試してみました。各自が「短歌」「川柳」
とも月毎に各々の世話役に投稿し、一覽して
配信して、又各自が寸評を加えて再投稿し
ます。それを纏めてまた各自に配ります。こ
の間の約2週間、何とか活動らしいことが出来
ていて、対面の例会とは違い多少もどかしい
所はありますが、会員の絆は保たれていま
す。

会ではこれを「メール短歌」「メール川柳」
と称して、各々3回実施してきました。早く
正常な活動が出来るようになります。

特別会員 五十嵐将夫

《一日の始まり》

「新しい朝が来た、希望の朝だ。喜びに胸を開け、大空あおげ。ラジオの声に健やかな胸を、この香る風に開けよ。それ、一・二・三」

そう、目の前「ある公園の、朝6時30分から聞こえてくるラジオ体操の歌です。私の一日の始まりです。この広場で行うようになったのは、20年前からだそうです。多い時は百人以上参加していたようですが、コロナ禍もあり、今は80人位でしょうか。

体操が終わると、朝マックへと行くグループ有り、愛犬を連れての散歩のグループ有り、花壇の手入れをしてくださるボランティアの方有り。

私は友人と公園内をウォーキングです。さまざまな情報が得られる大切な時間なのです。また毎日来ていた方の顔が見えないと心配になります。引越しまわたりで、いくつのお別れもあります。

この「夏の雲公園」では、四季折々

さまざまな木・花が咲き、癒され、今日も一日頑張ると言う気になさてくれませう。

自粛を強いられている今、誰とも一日中話をしない方が、まわりに沢山おられると聞いております。1時間足らずですが、毎日友人と会い、おしゃべりできるのは、ボケ防止?になるかな? (虹の会 菊池 孝子)



《戦争の記憶》

今、世界中がコロナで大変ですが、10年前の3月11日東日本大震災も未だ爪痕が残っています。

1945年(昭和20年)3月10日『東京大空襲』ご記憶の方は少なくなりました。昔話になりますが読んでください。

私は、浅草とスカイツリーのある押上の間、東京市本所区(今の墨田区)吾妻橋で生まれ、その時国民学校一年生でした。

年明け間もなく、大好きな兄の特攻隊出陣が決まり、霞ヶ浦航空隊へ最後の面会に行いました。3月8日の戦死を知ったのは何年も後でした。

3月10日未明。空襲警報がけたたましく鳴り、急いで外へ飛び出しました。水を求め隅田川方面へ逃げる人が多かったのですが、私達家族は風上の押上方面へ逃げました。

数えきれないほどのB29から落とされ

る礫のような焼夷弾で、木造の家は瞬間に火がつき一面火の海。風と猛烈な火の勢いで、大きな火の塊が渦になり飛んでいました。気が付いてみると一面焼け野原で、今の江東・墨田・台東区が大部分消失しました。

東京大空襲では10万人以上の人が亡くなっています。我が家は陸/海軍で3人戦死しています。紙一枚の帰宅で、遺品もありません。

8月の原爆では、広島は14万人。長崎では7万人。日本人全体では軍民間人あわせて310万人が亡くなったと聞きました。戦争だから、当然相手国の人も同じだと思えます。

コロナも天災も怖いですが、最も多く人の命を奪つ最悪の凶器は、戦争だと思います。

楽友会 斉藤 親枝

